

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170200455), 法人名 (医療法人社団 豊生会), 事業所名 (グループホームすぎの子 1階), 所在地 (札幌市東区東苗穂3条1丁目13番29号), 自己評価作成日 (令和3年1月10日), 評価結果市町村受理日 (令和3年2月25日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ダイバーショナルセラピーの考えを取り入れ事業所理念である「ゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」を実践。ケア記録ではその方の思いをくみ取る記録を行い、日々の活動や行事、ケア計画に反映し実践しております。また、法人各事業所とも連携体制があり、医療はもちろんのこと、リハビリ、栄養、口腔ケアなどの専門職との連携を行い、最期までその人らしく、楽しみがあり穏かで安心して過ごせるように日々関わらせて頂いております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_khon=true&JigyosyoCd=0170200455-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年2月5日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東苗穂にある「グループホームすぎの子」は、平成12年開設の3ユニット利用者27名が生活する事業所である。職員は、理念の実践に向け人格尊重の姿勢を共有し、ダイバーショナルセラピーの視点の下、一人ひとりの思いや望んでいることを汲み取った個別ケアに取り組んでいる。そのためのケアマネジメント力が優れており、利用者との会話や見守りから得た詳細な情報を認知症ケアの専門性を持って評価、検討し、本人本位のケアプランを立案している。また、その実践もチームワーク良く取り組んでいる。母体法人が多数の医療、福祉事業を展開していることから、各種マニュアルや書式、研修体制が整備され、医療面では訪問診療やリハビリ、口腔ケアも重視して支援している。ターミナルケアの経験も多く、家族の希望を受け一時帰宅を叶えたケースもある。事業所は住宅街の一角にあり、地域の人達とはお茶会やクリスマス会、餅つきなどの行事で交流が盛んである。コロナ禍の現状で外出や交流の機会を自粛しているが、屋内での活動を工夫し、利用者は収穫祭や鮭祭り、ハロウィンでは皆で衣装を付けるなどして楽しい時間を過ごしている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」を理念とし、理念の共有の為玄関に掲示し、ケアの実践に繋げている。	独自の理念は開設当初からの基本姿勢として施設内の要所に掲示し、全職員の共有となっている。技能実習生の入職時には理念や施設概要を説明し、随時育成援助を行うとともにサービスの提供場面で理念の意識付けを図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在はコロナ禍のため実施できていない。普段であれば散歩や近隣の商業施設に買い物に出掛けたりと、交流を行っている。	今年度は様々な地域交流が自粛となっている。通常時は、商業施設の利用や法人主催の各種交流の機会、近隣住民が主たるメンバーのボランティアグループでのお茶会や恒例行事の参加などで親しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ禍の為、実施出来ていないが普段であれば、法人内で健康教室やワクワク広場などの地域の方々も参加できる催し物を開催し、利用者様も参加することがある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍で行えず事業所内で意見交換を行いサービス向上に活かしている。	運営推進会議は家族や地域住民、包括支援センター職員の出席による定期開催であるが、令和2年度の前半は会議を中止し、10月から書面会議で開催している。議事録は家族や関係者へ送付し、包括支援センターからは意見や評価を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に電話やメールにて連絡や相談を密に行っている。	感染症対策により、対面的な関わりは自粛しているが、各種報告や利用者の健康管理など制度上の不明点も随時相談し、意見や助言を仰いでいる。また、実地指導等でも情報を共有し運営やサービスの質向上に生かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍の為、集団での勉強会や研修は行えないが、資料を作成して紙面での自己学習をする機会とし理解を深めている。	身体拘束適正化に向けた指針の下、委員会や勉強会を通して拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。今年度は拘束に係る内容の理解は資料学習に置き換え、職員個々の学ぶ機会を設定している。センサー等の使用の際には家族への説明やケアプランに載せて評価している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を作成して虐待について理解を深めるとともにスタッフ間でも情報を共有して虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様を通じて学ぶ機会があり、職員間で話し合いの機会を設けて支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に管理者がご家族様に直接口頭や文章で理解、納得して頂けるまで説明を行い、同意の元で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見、要望があればすぐに話し合い、フロア、並びに事業所全体の質の向上に努めている。	2ヵ月毎に写真満載の便りで利用者の生活情報を伝え、ケアプラン見直し時に評価表と共にコメントを添えている。窓越し面会やズーム面会など現状で可能な対応を提案し、電話や来訪の際にも家族の意見等の聞き取りを心がけている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から書面で「意見くみ取り」運動を行っており、職員からの意見や要望は職員、管理者で話し合い、反映できるように取組んでいる。	職員が発言しやすい環境を整え、パソコン上での記入方法を取り入れている。職員の発案で在庫食品の活用につながっている。法人からは随時感染症対策等での業務負担を労うサポートがあるなど、常に職員の意見や動向を意識した運営を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課を行い職員の評価や今後の目標などを定め、前向きに仕事ができるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、勉強会や研修には参加できていないが、書面での自己学習や技能実習生との関わりや指導を通じて能力を高めるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為今年度は他事業所との合同研修会は見送りとなっているが法人内メールなどを活用して情報交換を行いお互いの施設のサービスの質の向上に向けた取り組みをしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様やご家族様と面談を行い、当施設の説明を行い、困っている事や要望など聞きながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人様やご家族様と面談を行い、当施設の説明を行い、困っている事や要望など聞きながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談にてご本人様・ご家族様の意向を確認し、面談や他事業所等からの情報も得ながら内容を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まずはご本人様の主体性を尊重し、出来る事は行って頂く、出来ないことは職員が援助する事を心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ禍の為、面会中止になっているが、定期的な面会や季節の行事、誕生日会等には積極的に声を掛けて参加を促し、ご本人様との関係性を継続出来るよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、家族との面会や外出は控えているが、日常の会話などの中で昔の馴染みの話題などを提供したりしている。	家族と一緒に自宅帰宅や墓参に出掛け、以前の近所の方が来訪されたり、また、ダイバーショナルセラピーの一環として遠方の故郷探訪を楽しんだこともある。現在は利用者との会話で親しい人や馴染みの場所の話聞くようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、要望などを把握し、食事やアクティビティ時の座席の配置の配慮や必要に応じてその都度職員が介入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様との関係は特になかったが、必要であれば今後も相談や支援に努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接本人に聞いたり、普段の何気ない会話の中から思いをくみ取るようにしている。困難な場合はご家族様に聞いたり過去の生活歴などから思いを日々のケアに反映出来るように取り組んでいる。	共に過ごす中で本人の思いを聞き取り、表情や態度からも快や不快を見極め、サービスの提供や関わり方を検討している。日々の記録には本人が発した言葉の記載欄を設け職員間で共有し、心情の理解や暮らし方の希望に生かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様やご家族様に面談して直接聞いたり、今まで利用していた施設などから情報を頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の体調や様子など毎日の記録に記載し職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成時はご本人様とご家族様に意向を聞き、日々の生活状況を把握したうえで職員間で情報を交換しながら作成している。毎月見直しを行い、必要に応じてその都度、追加や変更など行っている。	職員全員がケアプラン作成に関わり、医療関係者の視点も踏まえ、半年または状態変化に即して見直している。毎月プランに対する評価を行い、詳細なアセスメント情報から捉えた現状のニーズと近々の本人または家族の意向を主軸にして個別のケアプランを立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記入して職員間で共有を図っている。毎月、定期的にプランの評価を行い、必要に応じて内容の変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて法人内外の専門医療機関への相談や受診など行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為現在は行えていないが、地域や法人の他事業所で行われる行事に参加をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望する医療機関を優先に利用している。受診する際は情報提供書を作成し適切な医療が受けられるように支援している。	受診は本人と家族の希望を優先し、家族と職員が協力して同行支援を行い、本人の情報提供表を渡している。協力医療機関は法人運営であり、殆どの利用者は隔週の訪問診療を利用している。気になる状態には夜間帯でも法人クリニックグループ内で相談や指示を得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時には特変事項を報告し、看護師と相談しながら必要に応じて医療機関の往診や受診対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は電話やメールなどで医療機関と細目に情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様には確認を行っている。又、体調が変化してきた時にはその都度、改めて今後も方針をご家族様、主治医、職員と話し合いながら今後の支援の方法を決めて対応している。	重度化における対応指針にターミナルケアの基本理念や具体的支援内容、医療連携等を記載し、契約時や状態変化に応じて家族と話し合いの場を設けている。重篤状況では改めて主治医を交えて方針を共有している。利用者と家族の希望に寄り添い、一時帰宅を叶えるなど、できる限りの支援にチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。	年2回、消防署や地域住民の参加協力により避難訓練を行い、浸水時対応として垂直訓練を実施している。定期の設備点検、災害時備蓄品、停電対策等の備えをしている。今年度は図上訓練とし、全職員が書面で確認をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人が職員達の人生の大先輩である事を忘れず、声掛けや対応を心掛けている。	利用者に対する適切な接遇の下、プライバシー、プライドを損ねないよう支援している。名前は苗字に「さん」付けを基本とし、居室は安全面を考慮しつつ、プライベートルームとして尊重するなど、常に人格を尊重したケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度、何を食べたいか、何を飲みたいか、どの洋服を着るか、など自己決定できるように声掛け対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の時間や臥床のタイミングなど、その人のペースを尊重して対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様や過去の情報も参考にしながら、嗜好や趣味に合わせた身だしなみを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事等には希望の食事を取り入れたり、職員と一緒におやつ作りを行ったり、盛り付けや野菜の皮むき、もやしの髭取りなど行って頂いている。	感染症予防対策を講じ、副菜のみ配食に切り替えている。個別の嗜好に応じて代替え品を用意し、収穫野菜で彩りを添えている。週1回ほどは皆でおやつ作りを楽しんでいる。形態変更に対応し、専門家の助言により補助食品の使用も検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量は記録している。往診時に主治医や管理栄養士などに相談しながら必要な栄養や摂取量が不足しないよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、必要に応じて援助している。必要に応じて歯科の往診を受けて頂き、対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの利用者様の排泄パターンを把握して、職員からトイレ誘導や介助を行い、トイレで排泄できるよう対応している。	個別のパターンを捉えることにより、体調不良や使用パット数を少なく抑えることができ、時間や仕草を察知しトイレでの排泄を支援している。布下着の着用支援やベット上での介助、夜間のポータブルトイレの使用等も個別状況に即応し、羞恥心の配慮や負担軽減にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食材を摂ったり、内服薬の調整や、腹部のマッサージを行うなどの対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全ての入浴を利用者様の意向で対応する事は難しいが、出来る限り要望に応えられるよう対応している。色々な入浴剤を使ってささやかだが、入浴を楽しめるよう心掛けている。	入浴スタイルや希望にできる限り浴えるよう、個別に週2回程入浴している。拒む場合はタイミングや人を替え言葉掛けも柔軟に行っている。シャワー浴や清拭は状態に応じ、重度の人も1階のリフト浴槽でゆったりと湯舟に入っている。会話や歌、入浴剤でもリラックスした時間を演出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状況や習慣に合わせて自由に休息をとって頂いている。室温や寝具の調節が難しい方にも気を配り心地良く休んで頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示や薬表を参考に職員は薬の内容、使用方法などを把握をしている。個人記録に変化の様子は記録し、往診時に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ひとりひとりの生活習慣や生活歴、嗜好を把握し、その方の力を活かした役割を支援し、楽しみや喜び、やりがいを感じて頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ禍の為外出等は控えているが普段は希望に応じて近隣の商業施設や散歩などの対応を行っている。	通常では、個別や数名での外出を中心に、近隣の商業施設やデパートでの買い物や外食、地域や法人主催の集いの場の参加、また、家族の協力で外出する利用者もおり、希望に沿って支援している。現在は散歩や玄関先での外気浴程度に留まっている。	感染症対策を講じながら、現状でできる外出支援や新たな楽しみの場面作りの意向を示しているため、その取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出が出来ない為、必要な物や購入したい物を伺いおこずかいを使用する事をご本人様にお話し職員が買い物に行ったり、ご家族様に協力をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話や手紙などの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のフロアにて季節の花を飾ったり、四季に合わせたフロアの飾りつけを入居者と一緒に行っている。室温や湿度調整を細目に行ったり音や特にトイレの臭いなどに注意した環境作りをしている。	居間には季節の装飾が施され、大きな窓からの日差しも明るく、温度、湿度、換気等にも配慮している。ユニット毎に利用者の生活スタイルに合わせて空間を活用し、ソファを増設して寛ぎの場を作っている。築20年の経年劣化があり、壁紙の張替えなど順次修繕を進めつつ居心地よく過ごせるよう環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりひとりの性格や人間性、他者との関係性を考慮して座席を配置したり、必要に応じて職員が介入したり、関わりを持つなど対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や物を利用して頂いている。ご本人様と相談しながら物の配置や購入するなどして、対応している。	8畳の広さの居室にベットが備えられ、自宅からは箆笥や仏壇、テレビなどが持ち込まれている。自作の人形や家族写真、猫のポスターなども飾られ、それぞれの個性に合わせ好きなものを手元に置き、安心できる居室になるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかるように名前をつけたり、手が届く場所に物を配置したり、障害物にならないよう物の配置も配慮している。		